



おきなわ



作品名：「ハイポーズ・カシャ」（第11回沖縄ねんりんピックかりゆし美術展 写真の部 銅賞）
作成者：上原 美代子さん（うるま市）

目次

- ② コロナ禍における社会福祉法人の地域における公益的な取り組み実態について
- ④ THANKS(サンクス)運動関連記事 他
- ⑤ シリーズ記事「ふくし&〇〇」
第7回ふくし&認知症カフェ(前半)
- ⑥ 福祉サービスに関する苦情解決
セミナーを開催 他
- ⑦ 行政・福祉・司法関係機関等 45 団体・70 名が参加
～地域生活定着支援事業研修会～ 他
- ⑧ 令和3年度かりゆし長寿大学校学生募集
中止について(お知らせ)
いきいき!かりゆし美術展(特別展)について
- ⑨ 離職介護福祉士等届出制度の御案内
- ⑩ 寄せられたご寄附の紹介 他
- ⑫ インフォメーション、寄附者芳名、表紙の絵

広報紙「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部に共同募金配分金を充てております。

特集

コロナ禍における社会福祉法人の地域における 公益的な取り組み実施について

新型コロナウイルス感染症が沖縄県内でも拡大している状況を受け、県社協では、この状況下でも、県内の各社会福祉法人がどのように公益的な取り組みを実施しているのか調査を実施しました。今回の特集では、その調査結果をダイジェスト版にてお届けします。

公益的取り組み実施率は、
前年度と比較して22%低下

調査は、県内の社会福祉法人が経営する社会福祉施設に対し調査票の郵送する方法にて実施しました。県内557の福祉施設に調査票を配布し、327施設から回答を頂きました。回収率は59%。
なお、回答施設の種別は、右の表の通りです。

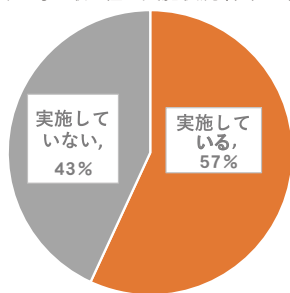
回答施設の属性	
種別	施設数
高齢関係	57
障害関係	50
児童関係	9
保育関係	208
その他	3
計	327

※その他は、救護園・婦人寮

福祉施設における、公益的な取り組みの実施状況については「実施している」と回答した施設が186施設(実施率57%)、「実施していない」と回

答した福祉施設が141施設
(43%)となりました。

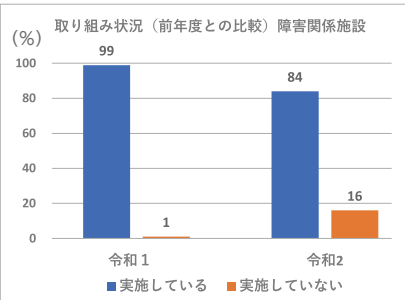
公益的な取り組み実施状況(令和2年)



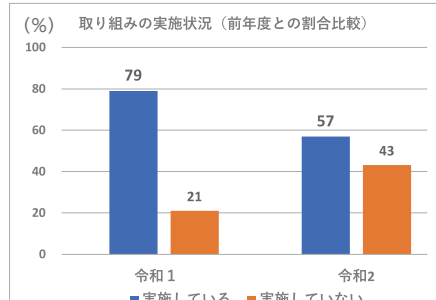
△グラフ1 令和2年取り組み実施状況

この数字を前年度の実施率と比較すると、令和2年は22%の低下となりました。(グラフ2参照)
コロナ禍において、地域行事やイベント実施が制限されるなか、福祉施設においても公益的な取り組みが実施できず、実施率の低下へとつながったのではないかと推察されます。

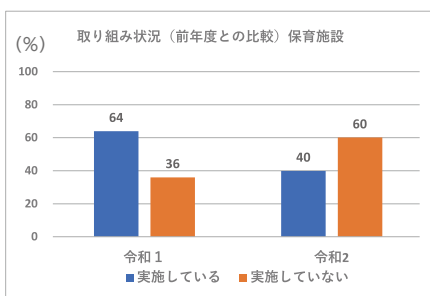
続いて、実施率の比較を施設種別ごとに分けてみると、次の表の通りとなります



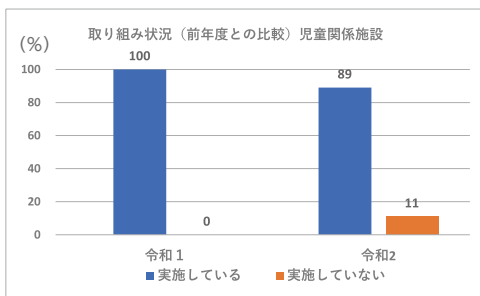
△グラフ3 前年比較(高齢者福祉施設)



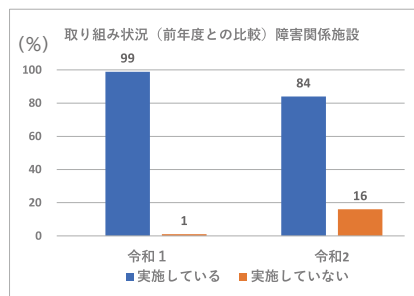
△グラフ2 前年との取り組み実施率の比較(全種別)



△グラフ6 前年比較(保育施設)



△グラフ5 前年比較(児童福祉施設)



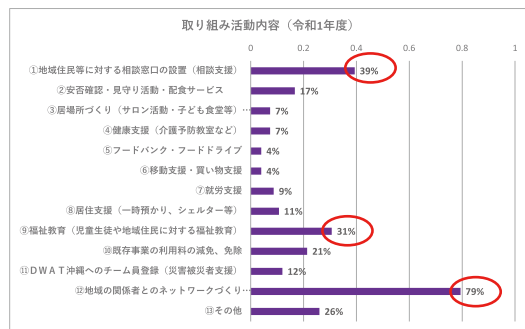
△グラフ4 前年比較(障害者福祉施設)

施設種別ごとに比較してみると保育施設において実施率の落ち込みが高いことが、このグラフでわかります。また、高齢関係施設においても前年より約10%の実施率低下となりました。コロナ禍において、取り分け、保育施設において取り組み実施に慎重になっている姿勢がうかがえます。

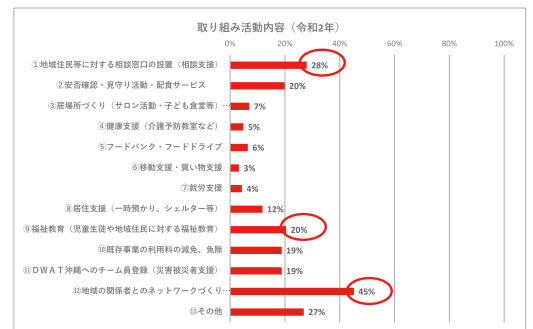
最も取り組まれている活動は「地域とのネットワークづくり」

令和2年中に、各福祉施設において最も取り組まれている活動内容は「地域の関係者とのネットワークづくり(45%)」となりました。具体的には、地域行事への参加や、地域イベントの開催などですが、令和元年は、同取り組み実施率79%であったことと比較すると、実施率が大きく落ち込んでいることがわかります。(グラフ7・8参照)

また、他にも「①地域住民に対する相談窓口の設置」や「⑨福祉教育の実施」も約10%実施率が低下しています。逆に、増えた活動内容とし



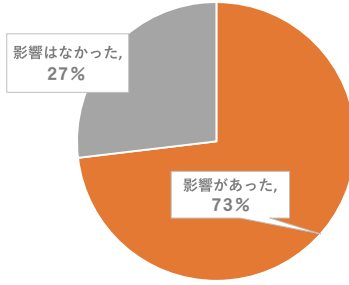
△グラフ8 令和元年に取り組みられた活動内容(複数回答)



△グラフ7 令和2年に取り組みられた活動内容(複数回答)

影響の具体的な内容として「施設内への地域住民の出入りを制限せざるを得なかった」、「地域行事が全て中止になった」とする回答が多く見られたことに加え、「小学校からの福祉講話の依頼が減少した」、「地元小学校への職員派遣を自粛せざるを得なかった」など、子ども達への福祉教

取り組みを実施する上での新型コロナウイルス感染拡大の影響の有無(令和2年)



△グラフ9 コロナ影響の有無(取り組み実施施設が回答)

育の機会が減少している状況がみられました。また、その他にも、担当する職員の業務負担・人材不足の課題を挙げる福祉施設が多くみられました。人材不足の課題は、前年の調査でも同様に課題として挙げられており、令和2年は、この人材不足の課題に加え、さらに新型コロナウイルスの影響が追い打ちをかけていることがうかがえます。

取り組み実施のうえで、約7割の福祉施設が新型コロナウイルスの影響を受ける

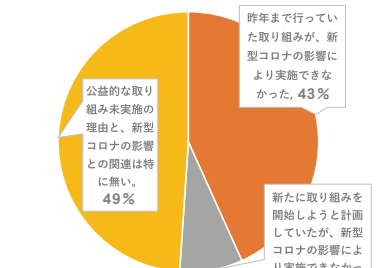
結果、新型コロナウイルス感染拡大により「昨年まで行っていた取り組みが実施できなかった」と回答する福祉施設は43%となり、少なからず影響を及ぼしていることが判明しました。また、加えて、「新たに取り組みを開始を計画していたが、コロナの影響により実施できなかった」と回答する福祉施設が8%という結果となりました。(グラフ10参照)

公益的な取り組み未実施の理由は「職員の業務負担・人材不足」が最多

調査では、公益的な取り組み未実施の理由と、新型コロナウイルス感染拡大との因果関係についても各福祉施設へ尋ねています。

今回の調査では、実際に活動に取り組みうえでの新型コロナウイルス感染拡大の影響の有無についても確認を行いました。

公益的な取り組み未実施と新型コロナとの関連性(未実施施設のみ回答)



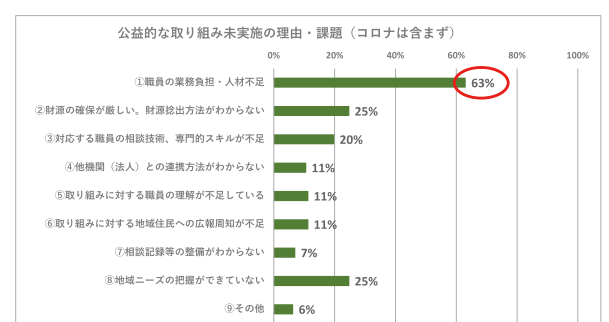
△グラフ10 取り組み未実施とコロナの関連性

まとめ 今回の調査では、多くの福祉施設において、新型コロナウイルス感染拡大により、昨年

まとめ

一方、新型コロナウイルス感染拡大以外の取り組み未実施の理由については、こちらも「職員の業務負担・人材不足」を挙げる福祉施設が63%となり、昨年から引き続き、最も多い回答となりました。(グラフ11参照)

以上のことから、取り組み未実施の福祉施設においても、これまで挙がっていた人材不足の課題に加え、令和2年は新型コロナウイルスの影響が、公益的な取り組みを実施する大きな阻害要因となっていることが、今年の調査から明らかになったと言えます。



△グラフ11 新型コロナ以外の取り組み未実施の理由・課題(複数回答)

「地域の人々が明るいネットワークを築き支え合う社会」を合言葉にはじまったサンクス運動。地域社会が変動する中、支え合う社会を築く多様な活動が行われています。サンクス運動関連記事では、県社協や各種団体での取り組みや活動を紹介します。

地域共生社会の実現に向けた多職種連携による包括的支援体制推進セミナーを開催しました。

県社協では、12月11日、「地域共生社会の実現による包括的支援体制推進セミナー」を開催し、県内福祉関係者125名が参加しました。

前半は県社協からTHANKS（サンクス）運動の取り組みについて事業説明を行いました。

引き続き、厚生労働省社会・援護局地域福祉課の玉置隼人地域福祉専門官から「地域共生社会の実現に向けた社会福祉法改正」と題し、行政説明が行われ、令和2年改正社会福祉法の概要や「重層的支援体制整備事業」の創設を踏まえた、包括的支援体制構築の促進についての説明をいただきました。

後半は沖縄大学島村聡教授の進行・助言のもと「制度の間に置かれたケースへの多機関協働による実践事例紹介」が行われました。

発表者として、那覇市就労・生活支援パーソナルサポートセンター照屋裕子氏、宜野湾市地域包括支援センターふれあい仲宗根ルミ子氏、西原町社会福祉協議会呉屋尚吾氏より「ホームレス支援」「ペットの多頭飼育による近隣住民とのトラブルへの支援」「複合的な課題を抱える多子世帯支援」の事例発表をいただきました。

参加者からの質疑応答も交えて、多職種連携による支援の在り方について学びました。

その後、事例発表者と島村聡教授を交えて「多機関協働による包括的な支援体制の構築・充実に向けて支援者が果たす役割について」のディスカッションがなされ「相談機関との連携による『断らない相談』の体制整備」「地域での『居場所づくり』『参加支援』の構築」の推進に向け、参加者と共有しました。

本セミナーはYouTubeでも視聴することができます。「地域共生社会の実現に向けた多職種連携による包括的支援体制推進セミナー」と検索してください。

※動画配信は3月31日までを予定しております。



▲セミナーの様子

全国社会福祉協議会会長表彰・中央共同募金会会長表彰・全国民生委員児童委員連合会会長表彰 合同伝達式

県社協・県共募・県民児協では、12月15日に県総合福祉センターにて「令和2年度 全国社会福祉協議会会長表彰・中央共同募金会会長表彰・全国民生委員児童委員連合会会長表彰 合同伝達式」を開催しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の全国社会福祉大会は開催中止、また、全国民生委員児童委員大会は規模縮小にて開催となりました。

本県の受賞者に対して、湧川昌秀県社協・県共募会長、眞榮城嘉政県民児協副会長から伝達を行いました。今年度は全社協会長表彰として民生委員・児童委員功労4名、社協・民間社会福祉団体功労1名、永年勤続功労20名、社協優良活動1団体が受賞し、そして中央共募会長表彰として従事者功労1名、全県児連会長表彰として功労者6名、永年勤続功労23名が受賞しました。

式では受賞者を代表し、那覇市民生委員児童委員の名渡山敦子氏から「多くの先輩、仲間、地域の皆様のおかげでこのご厚情あふれる賞を受賞することができました。まことに嬉しく思います」とのあいさつがありました。



▲全県児連会長表彰受賞者



▲全社協会長・中央共募会長表彰受賞者

ふくし&○○

この「ふくし&○○」では、地域福祉を応援する様々な取り組みを紹介します！

第7回

ふくし&認知症カフェ(前半)

「年齢を重ねても、自分らしく地域で暮らしていきたい」その想いに寄り添い、安心できる場を提供してくれる「認知症カフェ」その取り組み内容について、那覇市若狭にある地域包括支援センター若狭の管理者／主任介護支援専門員の島袋昌子さんにお話を伺いました。

島袋：「認知症カフェ」は1990年代にヨーロッパで誕生しました。日本では、2015年の「認知症施策推進総合戦略」の中心施策の1つとして位置づけられたこともあり、全国で開催されることになりました。

那覇市では、市内18か所の地域包括支援センターで「認知症カフェ」が開催されています。

「認知症カフェ」の主な目的は、認知症への理解を促すことや、認知症の方やそのご家族、地域の方々の居場所として、そして支援者や専門職種の連携の場としてさまざまなプログラムが開催されています。

地域包括支援センター若狭では、「認知症予防ニコニコカフェ」(以下、ニコニコカフェ)を第3火曜日の午後2時～午後4時の間開催しています。「ニコニコカフェ」は《学ぶ場》として認知症の専門知識をもつ講師のセミナー等を開催しています。また《つながる場》《くつろぐ場》として、ゆったりとした空間の中で認知症の方やご家族同士が悩みの共有やセンタースタッフへの相談、そして地域の方々と交流する場として開催しています。

次回5月号では、コロナ禍における「ニコニコカフェ」の取り組み状況を紹介します。



▲島袋昌子さん
(地域包括支援センター若狭管理者/主任介護支援専門員)

「認知症予防ニコニコカフェ」のお問合せは、地域包括支援センター若狭まで
(TEL098・863・1165)
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動を休止する場合もあります。参加希望の場合はお電話でご確認ください。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和3年度

ボランティア活動保険

全国200万人加入!!

保険金額・年間保険料(1名あたり)

保険金の種類		基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額	6,500円	
	手術保険金	入院中の手術 65,000円 外来の手術 32,500円	
	通院保険金日額	4,000円	
	地震・噴火・津波による死傷	×	○
賠償責任		賠償責任保険金 (対人・対物共通) 5億円(限度額)	
年間保険料		350円	500円

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増引適用

＜基本プランに加入される方へ＞

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

商品/パンフレットは
コチラ
(ふくしの保険ホームページ)



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課 保険会社〉
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00～17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
受付時間: 平日の9:30～17:30(12/29～1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

沖縄県福祉サービス運営適正化委員会

福祉サービスに関する 苦情解決セミナーを開催

沖縄県福祉サービス運営適正化委員会(以下、「委員会」という)は、12月21日、県総合福祉センターにおいて、苦情対応に求められる知識と技術を理解するとともに、苦情リスクを軽減し、福祉サービスの質の向上を図ることを目的に本セミナーを開催しました。

セミナーには、福祉サービス事業所の苦情解決責任者をはじめ、苦情受付担当者、第三者委員、高齢者・障害者・児童の各分野の施設・事業所から、132名の参加がありました。



▲セミナーの様子

委員会は、福祉サービスに関する苦情において事業所での解決が困難な場合や事業所に直接苦情を申し出にくい場合に利用者等から相談を受け付け、話し合いによって解決を図る機関として設置されています。

委員会に寄せられる苦情受付数は年々増加傾向にあります。苦情内容として、職員の状態や言葉づかいなどの職員の接遇に関する苦情が最も多い状態となっています。

まず、委員長竹藤登氏から「苦情対応に求められる知識と技術」と題して、苦情解決の目的を踏まえた上で、要望と苦情の違いに基づく対応方法や、苦情にならないための話し方や聞き方について講演していただきました。

オー・アンド・オーコミュニケーション・ショー代表の大山美智代氏からは「福祉サービス提供施設・事業所における苦

情にならない為の接遇」と題して、基本的なビジネスマナーを始め、苦情にならない為のコミュニケーションスキルとして、聞き方・伝え方・表現方法の重要性について事例や実践等を交えながら講演していただきました。

参加者からは「苦情は最も大切な情報であることに気付かされた」「職員同士でロールプレイングし、スキルアップを目指したいと思った」「相手にどう伝わるかを意識したい」等の感想が寄せられました。



▲講義をする竹藤登氏(左)と大山美智代氏(右)

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い 児童養護施設退所者等に対する 自立支援資金貸付事業が拡充されました

県社協では、児童養護施設退所者等を支援するため、自立支援資金貸付事業を実施しています。(一定期間の就業継続により返還が免除されます)

今回、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済的に厳しい状況にある児童養護施設退所者等を支援するため、自立支援資金貸付事業の拡充が図られました。

進学により児童養護施設等を退所した方

新型コロナウイルス感染症の影響によるアルバイト休業等により収入が減少した方を対象に生活費貸付の月額が5万円から8万円に増額されました。ただし、貸付期間は12か月間。

【家賃貸付】

◆貸付額：家賃相当額(月額3万2千円以内)

◆貸付期間：正規修学年数

【生活費貸付】

◆貸付額：月額5万円→月額8万円【拡充】

◆貸付期間：正規修学年数(拡充分については12か月間)

申込み受付窓口は、県社協で、受付期間が令和3年度末までとなっており、郵送による申込みも受付けています。

- ◆貸付額：家賃相当額(月額3万2千円以内)
- ◆貸付期間：2年間→3年間【拡充】
- ◆生活費貸付【拡充】
- ◆貸付額：月額8万円
- ◆貸付期間：12か月間



行政・福祉・司法関係機関等45団体・70名が参加 「地域生活定着支援事業研修会」

県社協・地域生活定着支援センター（以下、「センター」）では、12月17日、アイム・ユニバースで、このホール（浦添市）において、「令和2年度地域生活定着支援事業研修会」をオンライン配信により開催しました。

本研修会は、矯正施設を退所予定の高齢・障害のある受刑者の円滑な地域生活への移行に向け、関係機関と連携促進を図ること等を目的に開催するもので、行政・福祉・司法関係機関等45団体から70名が参加しました。

はじめに、県福祉政策課主任山城明日菜氏より「沖縄県再犯防止推進計画の概要について」と題して、行政説明がありました。全国平均よりも再犯者の割合が高い本県の特徴を踏まえ、県再犯防止計画の策定の意義や概要等について説明がなされました。

続いて、本会よりセンターの事業概要の報告を行い、

確保することが重要との指摘もありました。

参加者アンケートからは、

「当事者は万引きをコントロールできない状況にあるため、支援者が特性や変容性を十分理解し一緒に向き合っていくことが重要」や「万引き行為に至る引き金がどこにあるのか、見極めていく必要がある」、「症状を理由に支援対象外にせず、本人の強みに着眼点を置いて支援体制を整えていく必要がある」等の意見が寄せられました。

本会としては、本研修会を契機として、触法高齢・障害者の円滑な地域移行に向け、関係機関と連携を図りながら、支援ネットワーク拡充に向け各種の取り組みを行っていきます。

次に、大船榎本クリニック精神保健福祉部長の斎藤章佳氏より、「万引きを繰り返す人たちの治療現場から見えるもの」と題して講演がありました。万引き依存症の問題の本質や治療現場の実情、万引き依存症患者への関わり方等について、事例を交えてお話しいただきました。窃盗は検挙されづらく、常習化しやすいことや、窃盗をやめるために、窃盗行為に至る前に相談できるキーパーソンを



地域での権利擁護体制を築くために 「権利擁護推進オンラインセミナー」開催

県社協・福祉サービス利用支援センター（以下「本会」）では、1月18日、権利擁護推進オンラインセミナーを開催しました。

本研修会は、地域における権利擁護体制の構築にむけた施策について考えることを目的に、市町村社協・行政・福祉事業者等70名が参加しました。

成年後見制度利用促進法では、同制度が必要なときに利用できるよう、相談や制度利用のサポートを行う中核機関の設置や、利用促進に関する市町村計画を令和3年度末までに策定することとされています。

はじめに、県社会福祉士の石川和徳会長より県内市町村における利用促進に向けた取組状況や同会が県より受託して実施している支援策について説明が行われました。同氏からは、対象者がメリットを実感できる制度とするためにも利用促進の取組みをサポートしていきたいとお話いただきました。

次に講演では、「地域にお

ける総合的な権利擁護の構築について」と題して、ノートルダム清心女子大学准教授の中井俊雄氏より、岡山県総社市社協における総合的な権利擁護センターの設置までの取り組みや、そのポイントなどのお話をいただきました。中井氏からは地域における権利擁護体制の整備について、関係機関との連携を大切にし、出来ることから取組みを進めていくことが重要との指摘がありました。



オンラインにて講演する中井氏

令和3年度 かりゆし長寿大学校学生募集中止について(お知らせ)

「沖縄県かりゆし長寿大学校」では、今般のコロナ禍の影響により令和2年度の入学式を含む大学校の全ての講義や行事等の中止が余儀なくされました。そこで、令和3年度は上記の入学予定者を優先入学とする特例措置を講じるため、新たな学生募集は行わないことといたします。何卒このような事情をご理解くださいますようお願い申し上げます。

なお、令和4年度の学生募集につきましては、令和4年2月頃に本会ホームページや広報誌等でご案内いたしますので併せてご案内申し上げます。

令和3年度 定員・講義時間の変更

令和3年度かりゆし長寿大学校の運営は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う県総合福祉センターの貸館利用制限や各種感染対策等を講じるため、これまでの定員(192名)から半分(96名)の定員とし、講義時間も特別公開講座を除き90分から60分へ変更いたします。

※火曜日コース定員48名

(地域文化学科16名、健康福祉学科16名、生活環境学科16名)

木曜日コース定員48名

(地域文化学科16名、健康福祉学科16名、生活環境学科16名)



いきいき!かりゆし美術展(特別展)を 開催しています!

かりゆし美術展受賞

【審査員賞】(敬称略)

洋画部門・古謝廣／
作品名「タマナー」



日本画部門・榮野川盛治／
作品名「ニライカナイから」



書部門・真栄城徳喜／
作品名「階前虎跡石苔紫、
雨裏鳥聲江竹斑」



彫刻部門・與那嶺勝正／
作品名「風神」



工芸部門・岸本秋子／
作品名「タンカーユーエー
(初誕生)」



写真部門・當山清裕／
作品名「挑む」





離職介護福祉士等届出制度の御案内

○離職介護福祉士等届出制度とは？

届出制度は、介護の資格・技術・経験を持つ方々がいつまでも介護の仕事で活躍していけるよう国が平成29年4月に創設したもので、**介護福祉士の資格をお持ちの方については、都道府県福祉人材センターに対し、氏名・住所等を届出ることを努力義務としたものです。**その他、介護に関する下記の研修等を終了した方も福祉人材センターに届出ると様々な支援を受けることができます！

届出対象

・介護福祉士、介護職員初任者研修、介護職員実務者研修、介護職員基礎研修、ホームヘルパー養成研修1級・2級過程、生活援助技術者、介護に関する入門的研修

介護の資格をお持ちの方へ スマホで届出登録をしましょう！

「福祉のお仕事」ホームページにアクセスしてください。

「福祉のお仕事」

QRコードからも検索できます！

やってみよう！

① 届出者（介護）の方をクリック。

② 「新規登録」をクリック。

③ 利用規約に同意。

④ あなたの情報を入力してください。

⑤ メールを受信！開いてください。

⑥ URLをクリック。

⑦ 入力内容を確認するをクリック。

⑧ 「登録する」をクリック。

メールが届かない場合はどうすればいい？

以下のドメインを受信できるように、設定してください。

@fukushi-work.jp

おわり

設定が完了すると、登録アドレスにメールが届くので、開いてください。

あなたの情報を入力してください。

「入力内容を確認する」をクリック。

「登録する」をクリック。

届出登録すると

- ① 介護職に関係する最新の情報をお届けします！**
(福祉職の専門性を高める資料、福祉・介護に関するニュース、研修会情報等)
- ② 就職を御希望の場合、求職者登録を併せて行っていただくことで、相談員がきめ細かくご相談に応じ、新しい活躍の場と出会うお手伝いをいたします！**
(月に一度の求人情報誌の発送、職場説明・面接会等イベント情報の御案内等)



その他、届出登録をし、介護職へ復帰する方で、対象要件すべてを満たす方は**「再就職準備金貸付(40万円以下)」※**を受けることができます！
※詳しくは、センター（貸付事業担当）までお問い合わせください。

【お問い合わせ】

(福)沖縄県社会福祉協議会
沖縄県福祉人材研修センター
TEL : 098-882-5703
FAX : 098-886-8474
e-mail : jinza@okishakyo.or.jp



寄せられたご寄付の紹介

(※沖縄県共同募金会受付分)



たくさんの方々の心温まるご支援・ご協力、本当にありがとうございます！

赤い羽根共同募金



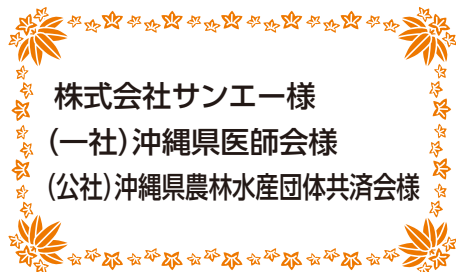
琉鵬会様
(歳末たすけあい募金含む)



沖縄県金融協会様



株式会社琉球銀行様
(歳末たすけあい募金含む)



株式会社サンエー様
(一社) 沖縄県医師会様
(公社) 沖縄県農林水産団体共済会様



沖縄県歯科医師会様



株式会社沖縄銀行様
(歳末たすけあい募金含む)

歳末たすけあい募金



琴の音保育園様



沖縄県ボウリング場協会様



一般社団法人沖縄県洋菓子協会様



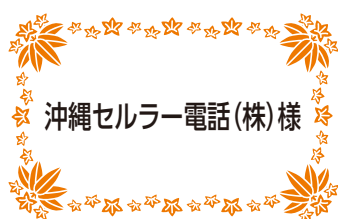
沖縄明治乳業株式会社様



オキコ株式会社様



公益社団法人久米国鼎会様



沖縄セルラー電話(株)様



沖縄製粉株式会社様



沖縄銀行労働組合様



株式会社丸大様

その他ご寄付いただいた団体様

株式会社沖縄メディコ様
親和トラストグループ様
琉球セメント株式会社様
三和金属株式会社様
琉球海運株式会社様
沖縄明治乳業株式会社様
大典寺様
沖縄フューチャーボランティアベースボール様
味自満チェーン様
有限会社友屋工業様



比嘉門潤市様



沖縄ガス株式会社様

【施設・団体等】

	市町村	施設名	事業名	内定額 (円)
1	那覇市	エイブルサポートつばさ	つばさ忘年会&新年会	100,000
2	那覇市	障害者支援事業所ゆいまーる	観光バスで美ら海へ	100,000
3	那覇市	沖縄県事業所協議会	令和2年度沖縄県事業所協議会 クリスマスプレゼント贈呈式	100,000
4	那覇市	特定非営利活動法人さばーと・なは 地域活動支援センターなは	クリスマス交流事業	41,000
5	豊見城市	特定非営利活動法人ゆい・ハート福祉会	新春・福祉交流会	80,000
6	浦添市	沖縄県脊髄損傷者協会	3密を避けた忘年会	100,000
7	浦添市	沖縄県脊髄損傷者協会	新年交流会	100,000
8	宮古島市	宮古地区手をつなぐ育成会 地域活動支援センターあだん	クリスマス交流会	34,000
9	那覇市	ちゅいたれーだれーい	クリスマス交流会	67,000
10	那覇市	沖縄県腎臓病協議会	令和3年度誌面新年会交流会 新しい生活様式で盛り上げよう！	100,000
11	浦添市	NPO法人あひるの会	クリスマスプレゼント	64,000
12	宜野湾市	動作法を学ぶ親の会（はづき会）	クリスマス会（プレゼント配布）	90,000
13	糸満市	特定非営利活動法人ワークサポートひかり	年間表彰式&昼食会	80,000
14	糸満市	障害者支援センターびゅあ	令和2年度 年末交流会	94,000
15	沖縄市	きら星エイサー隊	屋外レク交流会	100,000
16	那覇市	全国心臓病の子どもを守る会沖縄県支部	クリスマス会	68,000
17	那覇市	特定非営利活動法人ナカヤ	新年会	100,000
18	八重瀬町	特定非営利活動法人やえせ 就労支援センター野の花	交流会	72,000
19	那覇市	ふくぎ会	ふくぎクリスマス会2020	40,000
20	沖縄市	特定非営利活動法人あけぼの	新年交流会	50,000
21	名護市	特定非営利活動法人名護市障がい者 団体協議会おひさま工房	クリスマス・望年会	100,000
22	名護市	特定非営利活動法人名護市障がい者 団体協議会福祉サービス事業所のびる	忘年会	100,000
23	名護市	特定非営利活動法人名護市障がい者 団体協議会地域生活支援センターウェーブ	クリスマス・忘年会	40,000
24	沖縄市	障がい児サポートハウスOhana	クリスマス会	100,000
25	那覇市	ゆいまーるの会	ゆいまーる活動	100,000

【離島社会福祉協議会】

	社協名	内定額 (円)
1	伊平屋村社会福祉協議会	235,000
2	渡嘉敷村社会福祉協議会	50,000
3	座間味村社会福祉協議会	110,000
4	栗国村社会福祉協議会	145,000
5	渡名喜村社会福祉協議会	250,000
6	南大東村社会福祉協議会	50,000
7	北大東村社会福祉協議会	50,000
8	多良間村社会福祉協議会	195,000

【児童養護施設等】

	市町村	施設名	内定額 (円)
1	名護市	児童養護施設なごみ	50,000
2	沖縄市	児童養護施設美さと児童園	250,000
3	那覇市	児童養護施設沖縄県立石嶺児童園	250,000
4	与那原町	児童養護施設愛隣園	100,000
5	南城市	児童養護施設島添の丘	400,000
6	宮古島市	児童養護施設瀬水学園	100,000
7	石垣市	児童養護施設ならさ	100,000
8	那覇市	沖縄県里親会	400,000

12月1日から25日まで実施したNHK歳末たすけあい運動は、コロナ禍により県内の経済状況も厳しい中ですが、たくさんの方々の県民・企業団体から心温まるご寄付が寄せられました。
NHK歳末たすけあい募金（本会受付分）にいただいた浄財は、県内25団体への助成金、児童養護施設（8施設）の就学・就職に必要な支度金・県内離島町村（8町村）の支援を必要とする困窮世帯への見舞金として合計475万5千円を配分しました。ご協力いただきありがとうございました。

NHK歳末たすけあい募金

41施設・団体へ配分しました



寄附・寄贈者芳名(12月1日～1月31日) 御寄附・御寄贈いただき、誠にありがとうございました。



▲株式会社サンレー様(12.14)
【左から3人目】株式会社サンレー 代表取締役
社長 佐久間 康弘 様
【左から2人目】同社 取締役沖縄本部長
小久保 達美 様
【左から1人目】同社 管理部課長 田畑 一史 様
【右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀
【右から1人目】本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲糸嶺 篤秀様(12.1)
【左から3番目】糸嶺 篤秀 様
【左から2番目】糸嶺 正美 様
【左から1番目】糸嶺 篤義 様
【右から1番目】本会 会長 湧川 昌秀



▲おきでんグループボランティア
互助会様(12.1)
【左から2人目】おきでんグループボランティア
互助会 理事長 徳村 勇人 様
【左から1人目】同会 事務局 神谷 尚子 様
【右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀
【右から1人目】本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲オリオンビール株式会社様(12.22)
【左から3人目】オリオンビール株式会社 代表
取締役兼CEO 早瀬 京輔 様
【左から2人目】同社 PMO渉外室長大嶺 盛男 様
【左から1人目】同社 人事総務本部総務課長
嘉手苺 啓 様
【右から1人目】社会福祉法人 沖縄偕生会
沖縄県立 石嶺児童園
園長 上原 裕 様
【右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀



▲生命保険協会沖縄県協会様(12.16)
【右から3人目】生命保険協会沖縄県協会
会長 本郷 光一郎 様
【右から2人目】同会 副会長 山内 大輔 様
【右から1人目】同会 事務局長 許斐 英明 様
【左から2人目】一般財団法人 沖縄県セルフ
センター 理事長 金城 幸範 様
【左から1人目】公益財団法人 沖縄県老人
クラブ連合会 会長 新垣 昇 様
【左から3人目】本会 会長 湧川 昌秀



▲沖縄食糧株式会社様(12.16)
【右から3人目】沖縄食糧株式会社 代表取締役
社長 中村 徹 様
【右から2人目】同社 専務取締役 城間 剛 様
【右から1人目】同社 営業部長 田幸 正邦 様
【左から3人目】本会 会長 湧川 昌秀
【左から2人目】本会 常務理事 嘉陽 孝治
【左から1人目】本会 事務局長 高良 正樹



▲拓伸会(拓南グループ)様(12.22)
【左から3人目】拓伸会(拓南グループ)
副会長 小湾 正博 様
【左から2人目】同会(拓南グループ)
事務局長 外間 一成 様
【左から1人目】拓南本社株式会社
業務次長 喜屋武 智 様
【右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀
【右から1人目】本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲ハイスай探偵団様(12.22)
【左から3人目】ハイスай探偵団
団長 ひつちゃん 様
【左から2人目】同団 メンバー よったけ 様
【左から1人目】沖縄市民生委員児童委員協議会
事務局長 石原 イカリ 様
【右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀
【右から1人目】本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲株式会社 ASOVIVA(12.22)
【中央】株式会社ASOVIVA
代表 山崎 陽太 様
【左】社会福祉法人 沖縄偕生会 沖縄県立
石嶺児童園 園長 上原 裕 様
【右】本会 会長 湧川 昌秀

本の紹介
つむぐつなぐ 共に。
著者：崎山 ひろみ
出版社：介護・福祉啓発活動事業NEXT INNOVATION
「あれ ぼく なにか まちがっていたのかな」
という主人公【ぼく】の眩きからはじまる物語。日本が直面して
いる高齢化社会、人間関係の希薄化、ひとの無欲化など、すべ
てに通じる【生き甲斐】について。小さなお子さまから働く世代、
そして高齢者の方までが、見て、読んで、生きるパワーを感じる
事のできる絵本です。生きるとはなにか、自立支援とはなにか。
介護の本当の志事を伝えたい現役介護士の文に合わせ、自ら生
き甲斐を体感し自分らしく生きている95歳ご利用者の織りな
す絵の数々。この1冊の絵本がまるごと生き甲斐となっています。



写真掲載以外の寄附・
寄贈者芳名
●親川 久子 様
●公益社団法人 沖縄県
宅地建物取引業協会 様



▲沖縄ガス株式会社様(12.25)
【左から2人目】沖縄ガス株式会社 執行役員
総務部長 岡田 邦宏 様
【左から1人目】同社 総務課長 野崎 洋一 様
【右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀
【右から1人目】本会 常務理事 嘉陽 孝治

※本会への寄附については、税制上の優遇措置が受けられ
ます。詳しくは総務企画部まで

編集後記
今年度は生活・仕事・学
校等々、「コロナ禍」に対応しな
がらの1年でした。
これからも身体の距離は保
ちつつも、心の距離は今まで
以上に縮めていきたいですね！

上原美代子さん(73歳)は、
通っているパソコン教室でワ
ードやエクセルに入れる写真を撮
影する機会があり、教室の講師
やメンバーとともにかりゆし美
術展に出品したそうです。
今回の作品は、お孫さん当時
2歳)の成長記録を兼ねて撮影
した作品とのこと、お孫さん
は普段から「ハイポーズ・カ
シャ」と言いながら、大人の真似
をしてデジカメで撮影をしてい
たそうです。
作品撮影時には、しゃがんで
写真を撮る上原さんの真似をし
て、お孫さん自身もしゃがんだ
姿を撮影。
「モデルのおかげでとても良
い写真が撮れました」と語る上
原さん。この作品以降にもお孫
さんの誕生に恵まれたそうで、
今後も素敵なモデルさん達を
シャッターにたくさん収めてい
きたいとのことでした。

表紙の作品
作品名
「ハイポーズ・カシャ」

作成者：上原 美代子 さん